

三重大学教育学部

# 国際交流 ニュースレター No. 4



さまざまなこと思ひ出す桜かな (芭蕉)  
Spring, the sweet spring, is the year's pleasant king.  
(Thomas Nashe)

## 天津 便り

国際交流ニュースレター No. 4 目次

平成 20 年 (2008 年) 4 月 9 日発行

### 天津便り

天津師範大学で日本語を教えて

…………… 英語教育講座教授 早瀬光秋

天津師範大学での講義を通して

…………… 英語教育講座教授 中田康行

### 教員海外交流

私流国際交流 ～ 友達の友達は友達 ～

…… 教育実践総合センター教授 須曾野仁志

### 国際教育活動

国際教育推進プラン：パンゲアアクティビティ  
ウィーンと津市とで子ども同士のインターネット交流

…………… 技術教育講座教授 松岡 守

### 留学生便り

エアランゲン-ニュルンベルク大学での学生  
生活

…………… 音楽教育コース 3 年： 村上 文



## 天津師範大学で日本語を教えて

教育学部英語教育講座教授 早瀬光秋

2月17日から6週間、天津師範大学で日本語を教える貴重な機会を得た。担当の授業は「日語聴力」といって、日本語の聴解能力を高めることを目的とした授業であった。前任者の宮岡邦任先生や赴任中の伊藤彰男先生に、学生の様子、授業の進め方等について教えてもらっていたので、それに従って授業の準備をして教室に向かったが、いつも授業前は緊張した。しかし、学生たちの熱心な勉強態度に助けられ授業を進めることが出来た。最初に驚いたのは、学生たちの声の大きいことである。質問に答えたり、自ら質問をする時はもちろんのこと、特に教科書を私の後について読ませる時は21人全員が張りのある声で読み、見事であった。また、2、3の病欠のみで大変高い出席率であった。

クラスには班長、副班長と呼ばれる学生がおり、特に班長の学生は、教室の鍵を授業前に開けたり、授業中は機器の操作に関して手伝ったりしてくれた。特に私は毎授業パワーポイントを使用したため、ちょっと問題があると直ぐに対応してくれて授業がスムーズに進行した。

6週間という短い期間ではあったが、学生達や天師大のことが良くわかった。特に天師大が三重大との関係を最重要視していることを強く感じ、両大学の合作併学による共同教育の意義を再認識した。その共同教育を推進するためにも、今後多くの人的交流が行われることを期待する。

21人の学生たちは来年の4月に教育学部に留学することを大変楽しみにしている。帰国した今、彼等を受け入れる準備を着々と重ねていきたい。

なお、末筆ながら滞在中、天師大の国際交流処の方々、宿泊した大学ホテルの方々には大変お世話になりましたことに心より感謝致します。

← Language Lab でパワーポイントを使って授業をされる早瀬光秋先生

# 天津師範大学での講義を通して

教育学部英語教育講座教授 中田康行

3月2日から3月16日までの二週間の予定で天津師範大学にて言語学の一分野「語用論」を講義する機会を得ました。今回は中国訪問が初めてということもあり、まず中国に慣れるという事に加えて、講義を6回(3時間10分の6回授業)しなければならないという事情でした。しかし、学生は極めて勉強熱心で、担当教員を満足させてくれるものでした。古き良き時代の日本人学生を目の当たりにしているような錯覚に襲われます。

天津側の受け入れ機関である国際教育交流学院院長の鐘英華先生を始め、関係する全ての先生方の手厚い歓迎や日々の気遣いのお陰で毎日すこぶる楽しく過ごせました。大学内にホテルがあり、目の前50メートルくらいの所に授業を行う11階建てくらいの学舎が聳えています。この様子は、前回の宮岡先生の報告にもありました。

ですから私は、授業のない自由な時間を利用し、天津師範大学近辺の南開大学、天津医科大学等を何度か訪問しましたが、今回は南開大学および天津医科大学の写真も貼付します。南開大学は天津師範大学から歩いて20分くらいのところです。今後、三重大と天津師範大学との関係がさらに充実・発展する事を期待することは言うまでもなく、将来、南開大学との妹校提携が出来る日が来ることを期待したいものです。

今回の中国訪問と授業を通して実感したことは、中国の大学の実態の確認と、いかに中国の大学が世界に向けて発信が

不十分(別の言い方では宣伝不足)かという事実



南開大学 ↑

天津医科大学 →



天津師範大学教学楼。宿泊ホテルと向かい合っている。

の確認でした。このような印象を抱く人間は恐らく中国が初めての人であり、相当な程度に西洋文化の実相が分かっている人だと思えます。そのような意味で、近い将来、再度、天津師範大学に赴き、学問・研究のみならず、いかに大学を世界に発信出来るかという問題をも議論してきたいと存じます。このような意味で是非とも数多くの先生方に天津師範大学を訪問して頂きたいと思えます。

熟年世代や老年世代の方々には、多分「中国はあまり行きたくないかな」という苦手意識があると思えます。小生も事実そうでした。しかし、「百聞は一見に如かず」の諺通り、訪れてみると、天津は街並みが整然とした英国風の綺麗な町で、その整然とした美しさが印象的です。ですから、日本人の多くは中国の町の審美的美しさを知らないように思われます。そのような建物の美しさや整然さは恐らくヨーロッパ文化の影響だと思えます。それ故、初めて、天津を尋ねる者の目には、この町がまるでロンドンの一角を見ているかのように映ります。このような現実の姿が十分に世界に伝えられていない事実を筆者は残念に感じますと同時に、国際化の内容を深く真剣に考えさせられる今回の出張であったことを報告したいと存じます。

教員  
海外活動

教育学部附属教育実践総合  
センター教授 須曾野仁志

私流国際交流  
友達の友達は友達

この数年間、海外での国際会議(学会)での口頭・ポスター発表を、年2~3回続けてきました。英語での発表申し込み(プロポーザル)、発表論文(プロシーディング)、そしてプレゼン資料を作成するのは、なかなか大変なことで、時間もかかりますが、飛行機・旅好きの私には、やりがいのある仕事です。

「何のために、国際会議によく行くんですか?」と、よく目的を尋ねられることがあります。私はいつも「世界でたくさん友達を作ることです」と答えます。自分の実践・研究を発表したり、参加者の発表を聴くことも大切なことですが、私の第一の目的は



友達作りで、自分自身の国際交流の幅を広げることを大事にしています。

数多くの世界の人々と知り合うために、英語以外の世界の言葉で挨拶したり、自己紹介できるように努めています。韓国の人だったら「アンニョンハセヨ」、フィンランドの人だったら「キイトス（ありがとう）」、サウジアラビアの人だったら「アッサラーム アライクム（こんにちは）」、インドネシアの人だったら「ナマサヤスノ（私の名前は須曾野です）」というように、話しかけるようにしています。分科会での発表後に、英語で質問するときに、発表者の母語でこのように話しかけると、緊張していた発表者の表情が急に緩んだ感じとなって、私に親しみを感じてくれるようです。もちろん、私のレパトリー（覚えている言語）は限られており、「カンペ（カンニングペーパー）」が必要です。国際会議の途中で、この「カンペ」を作るには、会場でアクセス可能な無線インターネットが役立ちます。Google などの検索ページを使って、発表者の母語や挨拶について調べればバッチリです。

こんなふうに、世界での友達づくりを進めてきましたが、メールやスカイプ(skype)を使って、日本に帰ってきても、国際交流を続けることは楽しいものです。私はよく海外（特に米国）の学校の授業を見に行きますが、国際会議で知り合ったり、長くメールのやりとりを続けてきた友人が、学校を紹介してくれたり、学校を案内してくれることがあります。



世界中の研究者と交流を深める謎のメタボ忍者 Susono

友人が案内できなくても、その人が友人を紹介してくれることもあり、友人の友人が私の友人にもなります。

米国での国際会議では、スーツとかネクタイの人はあまり見かけません。私のプレゼンでは、伊賀忍者の衣装を着て発表することがあります（たまにですが、気が向いたときに）。私の故郷伊賀では、忍者フェスタの時期には、市長や市議員が真面目に忍者の格好をするので、それで思いついた Ninja コスチュームでした。Ninja コスチュームも、友達づくりや国際交流には役立っているように感じます。ただ、恰幅のよいメタボ忍者では、俊敏な動作はできず、ダイエットが必要かもしれません。

## 国際教育活動

国際教育推進プラン：パンゲアアクティビティ 教育学部技術教育講座教授 松岡 守  
ウィーンと津市とで子ども同士のインターネット交流

国際教育推進プランとは、文部科学省が推進しているもの（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/07/060630\\_05.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/07/060630_05.htm)）で、平成 18 年度に津市が主体、三重大学等が連携する形で応募し、採択されました。津市の活動は次の 2 種からなります。

### 【パンゲアアクティビティ】

月に一度、津市内の子どもたち（20 数名）が土曜の午後に三重大学のメディアホールに集まり、お絵かきなどの活動を行う。特徴的なのは、できあがった作品をパソコンに収め、海外を含むいくつかの拠点の子どもたちと共有すること。また絵文字メールを使って言葉の壁を越えた交流を行うこと。

### 【スクイーク+電子百葉箱による国際的な情報・環境教育活動】

スクイークという子ども向けプログラミングソフトと、フィールドサーバという電子百葉箱を組合せ、子どもたちが遠くの電子百葉箱の情報をパソコンで得るプログラミングを行ないつつ情報教育、環境教育を進めようという活動。

通常のパンゲアアクティビティでは他の拠点とは別々に、あるいはメールのやりとりといった時間的にずれのある交流ですが、3月8日にはパンゲアアクティビティの一環としてウェブカメラ等を用いてウィーンの拠点に集まった子どもたちとリアルタイムの交流を行いました。内容はみんなで大きな声を出し、大きい方が勝ちという「こえつな」、色からものを連想し、相互にそれが合うかどうかを競う「マッチゲーム」です。時差の都合で通常のパンゲアアクティビティとは異なり、夕方 5 時から 8 時までの活動の間両国の子どもたちの歓声が響き渡りました。写真は総合結果の発表の瞬間です。

津市の活動はファシリテータの日本人学生、留学生、ALT、一般の方に支えられており、他の拠点との交流を抜きにしても国際的で異文化理解につながる活動になっているという特長があります。平成 20 年度は最終年度となります。今年度は教育実地研究基礎の位置づけで学生にファシリテータとして関わってもらう計画です。



ウィーンの子も達とゲームを楽しむ子どもたち

留学生  
便り

エアランゲン-ニュルンベルク大学  
での学生生活

音楽教育コース 3 年：村上 文



留学生と：左から 2 番目が村上さん



小学校の授業風景



アルブレヒト・デューラーの生家だそうです。

私は 2007 年 10 月よりドイツの協定校エアランゲン-ニュルンベルク大学 (FAU) で音楽教育を学んでいます。ニュルンベルクに到着してからもう早いもので半年が過ぎ、今はドイツの大学も春休みです。ニュルンベルクは 2 月の下旬辺りから気温が少しずつ上がり、公園の木々や道端には緑が戻ってきています。また 3 月下旬にはイースター (復活祭) があるので、街の中央市場には今期間限定で大きなマーケットが開かれています。いつもは静かなニュルンベルクですが、この年に数回のマーケットの時期には世界各国から多くの人が観光に訪れ、街はとても賑やかになります。

FAU には 5 つの学部、260 以上もの講座があります。各学部や講座の校舎がエアランゲンとニュルンベルクの 2 地域に分散しています。私の所属している教育学部は、ニュルンベルクの都心から路面電車で数十分のところにあります。近くにはサッカースタジアムやニュルンベルクのマイスタージンガーホールなどがあり、多くの人が訪れます。また第一回ナチ党大会が開かれた建物もあり、敷地内には当時の資料や会場跡が生々しく残されています。負の遺産とされ、現地学生の社会見学の場所となったり、外国人に向けても英語の音声案内があったりと、ニュルンベルクでは重要な歴史的建造物の一つです。

留学生は基本的に、どの学部の授業も履修が可能です。私は 10 月から 2 月までの冬学期、17 個講義と実技のレッスン、小学校での実習に行きました。教育学部は実践的な授業内容であるという点と、多様な専門分野の講義があるという点でとても魅力的でした。実践的な授業内容については実際に小学校での授業を想定したもので、自分の考えた指導案に基づいて模擬授業を行ったり、反対に生徒になって他学生の模擬授業を受けたりしました。専門分野の講義については、理論的な分野の講義に加えてロックミュージックの授業やコンピュータを使った曲や楽譜の制作など、他分野に渡ってさまざまなことを学びました。

FAU の学生オフキャンパスでの生活はそれ程三重大生と大きく変わることはないと思います。バイトをしたり友達と飲み会をしたり。休みの日に大学へ行くと、勉強をしている学生や講義を受けている学生も見かけます。教育学部の学生の中には長期休みを利用して、隣国の学校へ実習に行く人もいます。陸続きのヨーロッパだからできることなのかなあと少し羨ましいです。

ニュルンベルクでの講義や実習を通して教えるということに今まで以上に魅力を感じるようになりました。残り 1 学期の留学生活ですが、意義の有るものにしたいと思います。

